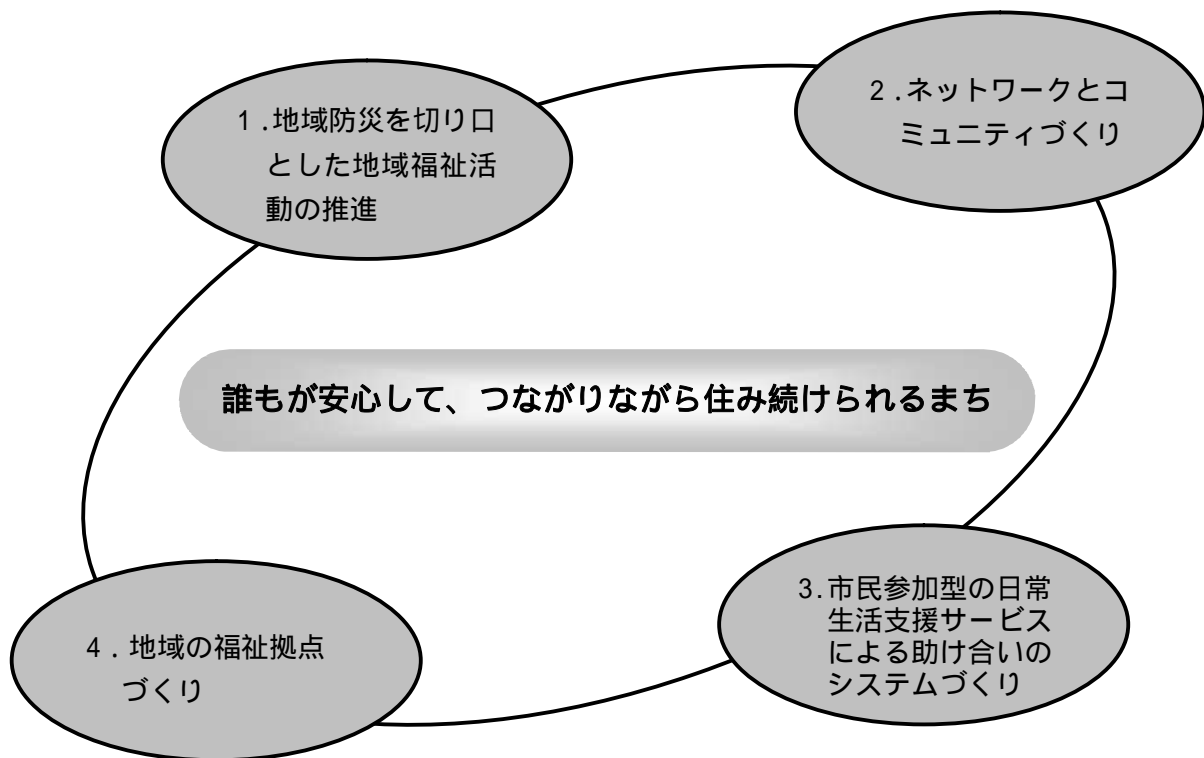


## 第6章 地域福祉推進のための重点プロジェクト

南丹市地域福祉計画では、4つの重点的な取り組みとして「重点プロジェクト」を定め、市民をはじめ、地域の各団体・組織、行政・関係機関などがそれぞれの役割をもって、進めます。

これらの重点的な取り組みは、市民に行ったアンケート調査やワークショップ、地域の団体・組織に行ったヒアリング調査などをもとに、南丹市における重点的な課題として取りまとめたものです。計画の推進にあたっては、これら4つの取り組みを主な切り口として、南丹市における地域福祉の推進を図り、計画の将来像である「誰もが安心して、つながりながら住み続けられるまち」の実現をめざします。



## 1. 地域防災を切り口とした地域福祉活動の推進

近年、地震をはじめ、豪雨などによる洪水や土砂災害、さらには竜巻災害などのさまざまな自然災害が発生しています。こうした中、高齢者や障がいのある人などの災害時要援護者の被災が増加しており、対策の強化が求められています。

南丹市では、少子高齢化や核家族化の進行、高齢者世帯の増加、障がいのある人の増加、さらには地理的な条件なども考えると、地域防災は重要な課題となります。

また、災害が発生した場合の対応としては、「7（自助）・2（共助）・1（公助）の原則」といわれるように、日頃からの隣近所の関係が、災害時の迅速な対応や救援活動へとつながるといえます。こうした災害への対応は、行政主導となる公助的な要素が強いように思われますが、実際には自助、互助・共助といった、いわゆる地域福祉の分野として重要となっています。

そのため、地域の防災に対する意識の高揚をはじめ、緊急時の情報提供体制の確立、さらには自主防災組織の確立など、災害時に地域で対応できるよう、仕組みづくりを行います。

### 【南丹市での現在の取り組み】

南丹市の現在の取り組み状況として、園部地区では園部町民児協のたすけあいネットワーク台帳の作成、八木地区、日吉地区、美山地区では自治会組織や振興会独自の防災システムや災害時の体制づくりに取り組み、自主防災組織が立ちあがってきています。

### 【今後の取り組みの方針・内容】

項目	内容
方針・目的	市民と地域が連携し、災害時に対応できるよう、防災訓練などに取り組み、災害時に地域で対応できる体制を集落単位で整備します。
市民の取り組み	防災用品を常備します。 避難場所を家族と話し合うなど、災害に対する意識を高めます。
団体・組織など、地域の取り組み	いざというときに、情報を提供できるよう、情報提供体制などのネットワークを構築します。 行政と連携し、防災訓練などに取り組み、市民の防災意識を高めます。 防災訓練などをきっかけとして自主防災組織や支援策をつくります。
行政の取り組み	要援護者台帳を作成し、情報公開の方法などを明確にします。 社会福祉協議会と連携し、防災マップや帰宅支援マップ <sup>14</sup> 、要援護者避難支援マニュアルなどを作成し、災害時への対応の方針をつくります。 避難訓練の実施支援や講演会などを行い、市民の防災意識を高めます。

<sup>14</sup> 警戒宣言時に公共交通機関の停止により、帰宅が困難となる滞留者が徒歩で帰宅できるよう、トイレ提供などの支援を行う帰宅支援場所の位置や主要帰宅経路などを掲載した地図。

## 2. ネットワークとコミュニティづくり

福祉ニーズが増大する中、今まで以上に、地域における取り組みが重要となります。その一方、地域の団体・組織の高齢化や役員のなり手がいないこと、さらには各団体個々での取り組みでは対応できない課題などもでてきています。

このような状況に対応できるよう、団体・組織間の横のつながりを強化し、ネットワークをつくる必要があります。

ネットワークとコミュニティづくりは、こうした団体・組織間のネットワーク化をはじめ、市民の参画を促し、地域全体で地域の生活課題や福祉課題に対応しようとする取り組みです。

### 【南丹市での現在の取り組み】

南丹市のボランティア活動については、ボランティア団体と民生児童委員、各種関係機関の代表からなるボランティア運営委員会を立ちあげ、ネットワークの構築を行い、ボランティア活動の推進に取り組んでいるところです。

### 【今後の取り組みの方針・内容】

項 目	内 容
方針・目的	小学校区単位をはじめ、身近な地域活動への市民の参加を促すとともに、団体・組織間の交流からネットワークをつくり、コミュニティをつくりま
市民の取り組み	子どもや高齢者、障がいのある人などへの声かけや見守り、サロン、情報提供などの住民福祉活動に参加します。
団体・組織など、地域の取り組み	地域団体・組織ネットワーク会議（仮称）を開催し、地域の問題を話し合う機会をつくりま 会議などの場で話された内容を地域にも伝えます。 行政と連携して、人材育成を図ります。 各地区における地域福祉活動の活性化を図ります。
行政の取り組み	団体・組織間などのネットワーク化を図るよう、支援します。 団体・組織と連携し、人材育成を図ります。 他地域の活動事例や市のモデル事業などを広報紙やホームページなどを通じて、情報提供します。 各地区における小地域福祉活動の活性化に向け、活動の支援を図ります。

### 3 . 市民参加型の日常生活支援サービスによる助け合いのシステムづくり

南丹市が有する広範な市域や、地区ごとにあるそれぞれの特性などから、行政や、ボランティアなどの地域の活動だけでは対応できない課題があります。

特に、多くの意見がよせられた地域の交通手段の確保に関する課題は、その最たる例であるといえます。こうした課題にも対応できるよう、新たな仕組みづくりが求められています。また、各地方での生活の維持や、魅力あるまちづくりなどをめざすことを目的に、国が示す地方再生戦略でも、交通の確保を推進すべき課題としてあげており、活動の活性化がより一層期待されます。

市民参加型の日常生活支援といった助け合いシステムづくりは、行政やボランティアなどの地域活動でも手の届かない隙間を、事業として実施することにより、埋めていこうとする取り組みです。

今後、さまざまな分野への派生も期待されますが、こうした助け合いシステムの実現に向け、他地域などの事例を集め、研究を進めていくことが大切です。

#### 【南丹市での現在の取り組み】

南丹市では、在宅での自立した生活を支援するため、公共交通機関の利用が困難な高齢者などを対象にした外出支援サービスや、食事の支度が困難な高齢者を対象にした食の自立支援サービス事業を実施しています。

また、ボランティアでは、各地域で給食、手芸、絵手紙、手話、朗読、演芸などのボランティア団体が幅広く活動しています。

#### 【今後の取り組みの方針・内容】

項目	内容
方針・目的	地域の交通手段の確保を視野に入れ、市民参加型の日常生活支援サービスの実施に向け、研究を行い、実施を試みます。
市民の取り組み	地域活動に参加する意識を高めます。
団体・組織など、地域の取り組み	市民ボランティアを育成します。 行政と協働し、市民参加型の日常生活支援サービスの実施に向けた活動に取り組みます。
行政の取り組み	ボランティア活動への支援を行います。 市民参加型の日常生活支援サービスの実施に関する先進事例などを収集し、地域での実施に向けて研究します。 市民参加型による移送サービスの実施に向け、民間交通機関などと協議を行います。

## 4 . 地域の福祉拠点づくり

南丹市における各地区の地域特性をふまえると、地区ごとに人が集まれる拠点が必要となっています。また、保育所の空き教室をはじめ、商店街の空き店舗など、既存の空き施設もでているため、こうした施設を活用したり、既存施設を有効活用したりすることで、市民が気軽に集まり、交流し、情報を交換できる場や相談の場を確保することが求められています。

新たな施設をつくるのではなく、既存施設の有効活用による地域の福祉拠点づくりをめざします。

### 【南丹市での現在の取り組み】

南丹市では、障がいのある人の日常生活支援、社会復帰、自立及び社会参加の促進を図るとともに、障がいのある人に対する理解を深めることを目的として、南丹市地域活動支援センター事業の運営をはじめました。

また、各地域で地域住民のサロンや、高齢者サロン、子育て中の親のサロンなどの活動が活発となっています。

### 【今後の取り組みの方針・内容】

項目	内容
方針・目的	各小学校区単位をはじめ、身近な地域における既存施設などを、福祉拠点として有効活用し、地域の交流機会を促進します。
市民の取り組み	拠点施設を利用します。
団体・組織など、地域の取り組み	拠点施設の運営・管理を行います。 拠点施設において、イベントや活動などを行います。 座談会を開催するなど、市民の福祉意識の向上に向けて、働きかけます。 集落センターや公民館、隣保館などの既存施設を活用し、相談などを行います。
行政の取り組み	拠点となる施設を団体・組織などと協議・調整し、活用します。 団体・組織と連携し、イベントや講座などを開催します。 各地区の拠点施設について、周知し、利用を促進します。 集落センターや公民館、隣保館などの既存施設を活用し、相談などを行います。